

水の新潟を象徴するものとして、かつて埋め立てた堀のイメージを復元。市内に少しずつ水の新潟のイメージづくりが進んできている。



新潟市は由来水の都として発展し、かつては西堀、東堀をはじめ数多くの堀が市中を縦横にめぐり、近郊でとれた穀物などを積んだ小舟が往来した。

また、堀の洗場には米や野菜を洗う人の姿が見られるなど、堀は市民生活と密着し、堀端の柳とともに新潟の代表的な風情として親しまれていた。

しかし昭和三十年代に入ると、地盤沈下現象と自動車交通量の増大に伴い、堀はすべて埋め立てられて道路となり「堀と柳の都」と謳われた新潟の代表的な景観が消えてしまった。

そこで、市民の中から昔の風情を懐かしんで堀の復活を望む声がいよいよ高まり、歴史的港湾施設として重要文化財の指定を受けている信濃川左岸の旧新潟税関(運上所)を核に、旧早川堀の復元が行われた。

現在明治二年につくられた旧税関の石庫が水面に映える往時の景観をしながら、今後はさらにこの周辺を「みなと史跡公園」として整備し、信濃川左岸周辺地域の活性化を図ることとしている。

データボード③⑧

- ① 新潟県新潟市緑町
- ② 新潟市役所 ☎025-228-1000
- ③ 延長65m、幅7.2m、水深0.5~1.2m
- ④ 護岸：花崗岩割石積 水道水循環式